

キャラクター名  
岩倉 現政

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ソラリス	ワークス	FH支部長A	カヴァー	市長
オプション		年齢	58	性別	男
覚醒	命令	衝動	解放	初期侵食率	33 %
出自	権力者の血統	経験	出世	邂逅	理想の実現

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	0		1			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	6		0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
FH幹部	
サポートスタッフ	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費
[57] 作業員/マグネイト	P	N	
岩倉 雁蔵	P 遺志	N 嫌悪	
冷泉 和代	P 連帯感	N 不信任	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 14    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
タブレット	5	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	エフェクトをの射程を「視界」に変更、1回/1シーン							
多重生成	2	3	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果:	タブレットの対象を「Lv+1体」に変更							
狂戦士	2	5	メジャー	視界	単体	自動	80%	
効果:	次のメジャー判定-Lv×2D、C値-1							
覚醒の秘薬	1	2D10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120%	
効果:	対象を未行動化、1回/1S							
帰還の声	1	6	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果:	エフェクト使用回数1回復、1回/1S							
女王の降臨	1	5	セットアップ	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	セットアップにソラリスのメジャーエフェクトを使用、1回/1S							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

Y県の西部に存在する鹿野市の市長。彼の家系は廃藩置県が行われた頃からこの街の長を務めあげており、彼もそんな一族の跡取りとしてこの街の市長の座につくことが約束されていた。この街に住まう人々を愛する彼はいずれ座るべき椅子に相応しい人物になるためにその半生を捧げた。市議会で父の仕事を始め、日本政府から全国の市議会県議会に収集が掛かった。御上が彼ら呼び出した理由は、世界にばら撒かれたシネグライドウイルスとその対策について。UGNと手を結ぶかストレンジヤーズを設立するかを決めあぐねていた行政は、少なくとも末端にはこの世界の真実を打ち明け、その場しのぎとはいえ市町村において起きたシネグライドウイルス関連の事件を鎮静させられるだけの戦力を与えようとしたのだ。つまりは、人為的なオーヴァードへの覚醒。安全性も定かではない、現在から考えれば極めて乱暴な方法でその街に住まう公僕をオーヴァードに覚醒させ、緊急時の対処に当たらせる先兵にすることを提案したのだ。世界の真実に対して耳を塞ぎ逃避をはかるもの、世界の真実を知ってなお無視するもの、外部の戦力に頼ろうとしたもの、提案を了承し秘書や公務員をオーヴァードに覚醒させたもの。市議会県議会の反応はさまざまであったが、こと鹿野市においては、いずれこの市を背負って立つ一人息子の岩倉現政こそが、市民の誰よりも早くオーヴァードに覚醒すべきと彼本人が結論を出した。鹿野市とそこに住まう市民のために平気で命を懸ける彼は、当初の政府が想定した直接的な防衛力こそ持たなかったが、無事オーヴァードに覚醒し、街の平和を守るにふさわしい人物となっている。

現在の彼は「鹿野市議会」という名のセルの長を務めるFHセルリーダーという立場をとっている。掲げるマニフェストは鹿野市とその市民の停滞なき平穏と犠牲なき発展。そのため彼は、外部からのこのこと現れ我が物顔で規制を敷くUGNや市民を犠牲とした悪辣を働く他のFHセルを敵対視しており、この鹿野市を自分たちで自衛するため、そしてこの街の市民が持つ才能や可能性を引き出すため、彼は市議会をFHセルとして運営することを決めた。彼の能力は『役員選挙』。自分が目を掛けた人材に活躍する機会と活躍しやすいコンディションを整える。市議会のもとに集うFHの構成員たちが抱く欲望はどのような公正無私な大義であろうと、俗物根性に囚われた私欲だろうと等しく愛し、彼らの「行末」をただただ見守ることを決めている。